慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	物価の暴騰と其調節に就て（上）
Sub Title	
Author	高城, 仙次郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1917
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.11, No.9 (1917. 9) ,p.1235(103)- 1247(115)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19170901-0103

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

を迫る等の傾向を生ぜりと、如斯、宇治地方に於ける焙爐師の態度強固なるは蓋し、宇治に火藥製造所建設され之に勞力が吸收さるゝ結果なるべし。

之を狹山地方に付て見るに多少其趣を異にする點なしとせず、勞銀關係に至りては略〻大差なきが如くなれども、宇治地方に於て勞力が他に吸收さるゝ迄、單に拱手傍觀するに反し狹山地方にては之亦前述せる如く各所に傳習所を設けて茶師の養成に努め居る爲め茶師の人氣は頗る良好なり。

次ぎに茶葉勞働にては何故に同盟罷工或は雇主及勞働者間に紛擾を生ぜざるかと云ふに實に左の諸原因に基くものなりとす、

（一）勞銀が比較的高率なる事

他の生產工場の企業家は自己の利益のみを慮りて諸物價の騰貴するをも顧みず之に比例したる勞銀を支給せざるに反し、茶業勞働者は比較的高き賃銀を支給さる

（二）勞働期間が一定せる事

他の工場例へば紡績工場の如きに於ては年中作業に從事せざるべからざるに茶業に於ては茶期なるもの定まり即ち五月上旬より九月下旬乃至十月上旬迄なり、若し此四五ヶ月間に於て茶業者が勞働者を得る事能はざるに於ては可惜生葉を冗成せしむるか乃至は摘採したる生葉を腐蝕せしむる恐ある爲一時急激に多大の勞力の需要を來し勞働者は之を好機として、自己が滿足すべき要求を提出し、雇主は生產を中止する事能はざる爲之に應ずるの傾向あり。

（三）勞働が買收制ならざる事

紡績工場、製糸工場等に雇はるゝ女工は三五年の期間を限りて勞働を雇主に年季的に賣約するものにして而も大に虐待せらるゝ等の事を屢耳にするも茶業勞働に於ては前項に述べたる如き事情なる爲かゝる事なし

要之斯の如き事實の存在するを以て製茶業者對、勞働者間に何等の紛擾を見ざるものなりとす。

物價の暴騰と其調節に就て（上）

高城仙次郎

緒言

物價平準が歐洲大戰勃發以來世界一般に昂騰し、我國の物價も其餘波を受け開戰後漸騰の趨勢を保ち殊に近時更に其程度が急激に爲つて居る。例へば、英國『エコノミスト』誌の編纂に係る物價指數を基礎として開戰當時即ち大正四年七月末に於ける同國の物價を一〇〇とすれば、本年六月末の物價は二二〇に相當する。即ち過去約三ヶ年間に英國の物價は十二割の暴騰を告げた。一方、東京市內の物價は、『東洋經濟新報』の調査編纂せる物價指數を標準として、大正三年七月末を一〇〇とすれば、本年六月末には一七九、更に七月末には一九五に上騰して居るのである。若し物價指數なるものが比較的精確に一般物價騰落の程度を表示するものであり、且つ東京市の物價が日本全國中の貨物相場を代表するものあると看做すことが出來るとすれば、同盟軍側の策源地であり、財政上に於ても軍器の供給に於ても他の同盟國に多大の援助を與へつゝある英國には及ばないが、交戰國と云ふも殆んど名許かりに過ぎない我國の物價が過去三ヶ年間に九割五分に上る騰貴を示して居るのみならず、今後戰爭が繼續する限り其騰貴の趨勢が急に頓挫するの樣子が見えない。

尤も開戰前と比較して今日物價の高く爲つた程度は勿論貨物の種類に依りて異なつて居る。例へば、金屬類の騰貴は最も著しく、今日の相場は戰前の三倍近くに暴騰して居るが、綿絹織物類及其原料品等の騰貴は十二三割で、穀物並に其他食料品の平均市價は三割乃至四割の昂騰を示して居るに過ぎない。但し此騰貴の割合は

各種類に屬する重要貨物の騰貴の平均に外ならないのであつて、更に各種類内に於ける個々の貨物に就きて云へば其騰貴の程度は決して一樣でない。例へば、食料品類に於て小豆は却つて寧ろ下落して居るに反し、大麥は八九割の騰貴を示し、織物類に在りては絹布の騰貴が僅かに三四割に過ぎざるに、木綿物並にモスリンが二十割内外も暴騰し、又金屬に於ても鐵並にアルミの騰貴は銅、鉛、錫等の夫れに比して其程度が遙かに著しい。然しながら、兎に角今日の物價騰貴は殆んど總ての貨物に及んで居ると云つて差支ないのであつて、是れが爲め一方に於ては生産業は殷賑を極め企業家並に職工等の所得激增し、幾多の俄分限簇生し開闢以來の好景氣を呈しつゝあるが、又一方に於ては必需品日用品等の暴騰の結果として左なきだに生計裕かならざる細民中生活難を訴へて居るものが少くない。就中最も困窮せるは下級官吏、公吏、中央並に地方政廳の傭員、小學校の教員等であつて中央政府、地方廳、其他大都市に於ても彼等の窮狀を察して增俸、增給又は一時手當の支給等に依り救濟策を講じつゝあるのではあるが、未だ根本的に物價の暴騰を防止するの手段を採つて居らないのである。現内閣は頻りに民間の海外投資を奬勵し、政府自身も今回一億圓の國庫證券を發行し、金融の調節を圖つては居るも、其の直接の目的とする所は露國政府に對する財政上の援助し同時に爲替資金の調達を容易ならしむるに存して、物價調節に對して大なる效果を齎らすものであるとは認められて居らぬ。於是乎、民間の論客中には政府が更に一歩を進めて國産品の輸出禁止又は制限、日本銀行の金利の引上等の手段に依りて物資の缺乏と信用の過度の膨脹とを防遏して物價の奔騰を緩和す可きことを論唱する者がある。物價が原因の如何を問はず急激に昂騰するときに其調節を絶叫する人士の輩出するは今回又は我國のみに限られたることでなくして、總ての國と總ての時代に共通の現象であると云つても過言でない。是れは、云ふ迄もなく、急速なる物價の騰貴が生産者階級を潤ふすものではあるが、同時に消費者階級を窮地に陷ゐらしむるの結果を生ずると一般に信ぜられて居るからである。然しながら、此の人爲的物價調節なるものは其の影響する所頗る廣汎であつて、決して濫りに實行す可きものでない。之を行ふ前には物價の騰貴を誘致せし根本原因を探究し、果して人爲的に之を救濟するを得るか否やを考察すると同時に、其調節が物價暴騰に依りて釀生されたる弊害を除去するの結果を呈するに至る可きかを研究す可きである蓋し若し輕卒に物價の低落を圖り或は騰貴の趨勢を人爲的に阻止せんと試むるの結果、甲の弊害を匡正することを得たりとするも、同時に乙丙の惡影響を齎らすことなしと云ふ能はざるからである。故に予は以下本篇に於て現時の物價騰貴を誘導せる原因に就きて聊か私見を陳べたる後、進んで其原因が容易に除去し得る性質のものなるか否やを討尋し、最後に目下の物價騰貴を人爲的に防止するは國民全體の幸福を增進する所以なるかを研究し度いと思ふ。

二　物價騰貴の原因

歐洲戰亂突發以來我國の物價を激騰せしめたる原因として擧げられつゝあるものは（一）或種輸入品の杜絶、（二）諸種國産品輸出の激增、（三）巨額の輸出超過、（四）正貨の增加、（五）紙幣の增發、（六）信用の膨脹、（七）企業の勃興、並に企業擴張に伴ふ物資需用の增進、（八）投機の流行、其他成金の奢侈等であるが、此等は皆直接間接に物價の騰貴を促進せる主因若しくは副因であることに就きては一點の疑ひを容るゝ餘地がない。例へば、（一）藥品、染料等の輸入杜絶、金屬殊に鐵類、洋紙、羊毛、棉花等の輸入の減退

は此等貨物の價格を昂騰せしめ、(二)穀物、船舶、軍器、其他の軍需品、莫大小等の輸出の增加は各其貨物又は其原料品の市價を引締めたに相違ない。更に(三)外國貿易に就きて之を觀るに戰前には我國は概して輸入超過の國にあつて明治四十四年には六千六百萬圓餘、大正元年には九千二百萬圓餘、大正二年には九千六百萬圓餘の輸入超過があつて、貿易の逆調は永久に繼續するのではないかと思はしむるの形勢を示し在外正貨の維持に關し當局者を頗る憂慮せしめつゝあつたが、大正三年即ち歐洲開戰の年には輸入超過が激減して僅に四百除萬圓となり、更に翌四年には一躍一億七千五百餘萬圓の輸出超過を現出し、次で大正五年に於ては輸出超過額は一層激增して約二倍即ち三億七千餘萬圓に達せるが、本年に入りて輸出貿易は益々好況を呈し我國に於ては每年前半期は輸出の比較的振はざる季節なるにも拘らず既に七月末日迄に三億二千百萬圓の輸出超過があつた。昨年一月以降七月末日迄の輸出超過額が一億二千百萬圓であつたことに想到すれば、本年中の輸出超過額が十億圓を突破するであらうと豫想されて居るのも穴勝ち根據の無いこととも思へない。斯くの如き我國に取りては振古未曾有である對外貿易の好況が國內に於ける物價の奔騰を促がすの結果を生ず可きは智者を俟たずして明かである。次に(四)我國の正貨が激增せしは巨額の輸出超過に基づくものであることは玆に喋々するの必要を見ない。開戰前後に於ける我國の正貨保有高は三億圓臺を上下して居のに過ぎなかつたが四年末には五億圓、五年末には七億圓以上に激增し、更に本年に入りて益々膨脹して去月上旬には約九億四千万圓に達した。我國が斯くの如き巨額の正貨を所有することは開闢以來の珍事であつて、最近迄は邦人の夢想だにせざりし所である。九億圓と云へば獨逸帝國銀行の正貨現在高十二億圓に比して我國としては大なる遜色を見ないのみならず、英國政府並に英蘭銀行正貨保有高の合計八億圓よりも多額に上つて居る此巨額の正貨が假令其大半が在外正貨として外國に預けてあるにせよ、我國民の企業熱を煽り投機心を挑發し夫れが爲め物價の騰貴を益々促進せずして止まざる可きは云ふ迄もない。又(五)正貨の激增の一直接的影響として且つ物價騰貴の明白なる一原因として吾人の看過す可からざるは兌換券の膨脹である。大正三年七月末日の日本銀行兌換券發行高は三億三千百三萬圓であつたが、其後漸次增加して三ヶ年後の本年七月末日には六億九百四十二萬圓に達した。其差は實に二億七千八百萬圓に上り、增加率は八割四分に及んで居る。物價は決して貨幣流通額のみに正比例して騰落するものではないが、此期間中に東京の物價が約九割五分方騰貴したのは怪むに足らずと云ふ可きである。(六)通貨の增加に附隨して信用も大に膨脹して居る。大正三年末に於ける東京組合銀行の各種預金總額は四億三千九百萬圓、貸出總額が四億九千萬圓であつたが、本年七月末(二十八日)には前者が八億九千百萬圓、後者は七億六千四百萬圓に增加した。即ち前者は十割、後者は五割以上の增率を示して居る。又、大阪組合銀行の預金總額は同期間に二億三千三百萬圓より六億三千五百萬圓に、同貸出總額は三億千九百萬圓より六億二千四百萬圓に膨脹した。其增加率は前者に在りては十七割、後者に在りては九割以上に達して居る。手形交換高に就きて觀るも信用取引が如何に膨脹せしかを窮知するに難くない。大正三年七月中に於ける全國十一交換所に於ける手形交換枚數は九十六萬七千餘、金額は八億九千萬圓であつたが、本年七月中には前者は百三十九萬九千餘、後者は二十八億八千八百萬圓に激增した。即ち枚數の增加率は約四割五分、金額の增

加率は二十二割以上である。即ち單に交換總額が膨脹して居るのみでなく、平均一枚の金額も二倍以上に增加した。(七)又企業の勃興は近時頗る著しくなつて居る。單に會社事業の新設のみに就きて之を觀るに、農商務省の調査に據れば、大正三年一月以降七月末日迄の新設會社數は二千六百六で、其拂込資本は六千百七十二萬圓であつたが、本年の同期間に於て新設せられたる會社の數は二千八百三で、其拂込資本總額が一億八千四百四十九萬圓に上つた。されば設立會社の數は僅かに一割弱の增加を示して居るに過ぎないが、資本金額の增加率は二十割弱に達して居る。斯くの如き巨額の新企業資金は內國に於ける物資の供給を增進し延ゐて物價の騰貴を促す可きは論を俟たない。(八)諸方面に於ける投機的取引も近來著しく增加せるは察知するに難くはないが、假りに會社株券の定期取引のみに就きて之を觀るとせば、東京株式取引所に於ける大正三年七月中の株券定期賣買總額が三千五百四十三萬圓であつたが、本年七月中には五億三千五百六十四萬圓の巨額に達したのである。即ち十五倍に激增したのであつて、大正三年一月以降十二月末日迄の總取引高（五億七千七百二十八萬圓）に殆んど匹敵して居る。

以上、各概數を以て示したるが如く、何れの方面を觀るも、未曾有の盛況、膨脹を目擊するのであつて、此等の事情は皆一として物價の騰貴を助勢せざるものなしと云い得るのである。從つて一般世人並に專門家が此等の原因に依りて物價騰貴を說明せんとするは當然のことであると云はざるを得ない。然しながら、吾人は物價騰貴の學術的說明として單に此等數種の原因を例擧するのみにては何となく物足りない心持がする。言葉を換へて言へば、斯くの如き方法で物價騰貴の原因を闡明せんとするは恰かも或結核患者が藥石效を奏せずして他界せるときに其病人の死せるは(一)病氣が第三期であつて、(二)主治醫の治療當を得ず、(三)本人が不養生で、(四)病室の日當が惡く、(五)家庭に心配事が多く、(六)兩親も同一の病症で倒れたので已むを得ないのであると云ふ風に種々雜多の主因副因を例擧するに比す可く、云はゞ徹底しない說明である。

凡そ或る出來事の原因を探究すれば主因と副因とを區別して考へる必要があるが、此兩者を明確に區別することが出來なければ、少くとも直接的原因又は近因と間接的原因又は遠因とを辨別す可きであるにも拘らず、往々是れが閑却せらるゝ結果として種々の現象の原因に就きて異論を生ずることゝなる。物價變動に對しても亦同一であつて、研究者の間に說を異にしてゐる點が尠くない。然しながら、概して云へば、物價騰落の原因に關する學說は二派に分つことが出來る。一は物價の騰落は貨物に對する需用供給間の關係に生ずる變動の結果であると論ずるもので他は物價の騰落は主として通貨の伸縮に依りて生ずる現象に外ならぬと說きて居る。獨逸の經濟學者は大體に於て前說を採り英米の學者は後說を奉じて居る。兎に角、今日經濟學界には物價變動の研究に關して此二個の學說が行はれ、兩派は相對峙して互に其說を固持して讓らない。然し吾人の觀る所を以てすれば、此兩學說即貨幣數量說と需用供給論とは決して根本的に相違せる氷炭相容れざる說ではなく、兩者共に各一面の眞理を含むもので其間に何等矛盾衝突して居る所がないのである。詳言すれば物價の騰落は貨物に對する需用供給を論據として說明することも出來れば、又通貨の伸縮を根據としても其原因を明にすることは不可能でないのである。故に是れから其の然る所以を說述し度いのであるが、先づ其前提として物價騰落の意義を闡明して置きたいと思ふ。如何となれ

ば、單に物價騰貴又は下落と云ふも、夫れには少くとも二個の異なれる意義のあることを記憶する必要があるからである。假りに物價が騰貴したと云ふときには、吾人は先づ其騰貴が僅々數種の貨物に限られたる現象であるか、或は物價平準即ち物價の高さの平均が騰貴せしかを明かにせなければならない。勿論、總ての貨物の價格が騰貴し若しくは下落せば、物價平準も亦昂騰若しくは低下するは言を俟たずして明かである。然しながら、總ての貨物が一の例外もなく悉く騰貴又は下落するが如きことは頗る稀有の現象で、通常一部の貨物が騰貴しても他の貨物が多少却つて下落して居る。それにしても、騰貴せし貨物の種類が下落せし貨物の種類よりも數が多く、或は騰貴の程度が下落の程度よりも著しければ、全體より觀て物價が騰貴して居ることがある。從つて物價の騰貴（又は下落）は局部的であるか一般的であるかを區別しなければならぬ。而して物價が局部的に騰貴又は下落せし場合には各其當該貨物の需用と供給との間に於ける數量的關係に依りて其騰落を說明することが出來る。否な此方法に依りて其騰落の原因を闡明す可きである。明治四十五年中米價が暴騰したときには他の多くの貨物は却つて幾分か低落した。同年中米價が奔騰したのは投機も勿論手傳つたのであるが、主なる原因が米穀供給の不足に存して居たことは喋々するの必要がない。斯くの如く或る特殊の貨物の市價が騰貴した場合には其貨物に對する需給の關係を以て說明することが出來る。然し、歐洲大戰亂以來の如く殆んど總ての貨物（政府專賣品は勿論除く）が騰貴せる場合にも矢張り貨物に對する需用供給の理を援用して說明し得るものであるか。前述の如く、開戰後我國に於ける通貨並に信用が未曾有の膨脹を示して居るが故に、今日此方面より物價騰貴を論じて居る者が尠くない。勿論、之と同時に輸入貨物の減退及び輸出の激增の方面より物價騰貴を說明しやうと努めて居る者もある。此兩種の說明孰れが正しく孰れが誤れるのであるか、或は兩者共正鵠を得たるものであるか。吾人の觀る所に據れば、既に上文に於て一言して置いた如く、此兩見解は共に一面の眞理を傳ふるものである。唯、各其說明が多少不完全であるのみであると云ひ得る。

凡そ如何なる貨物と雖も、其價格が其貨物の需用と供給とに依りて定まざるものは一もない言葉を換ゆれば、各貨物の需用增加するか或は其供給減少せば、其價格が騰貴する。從つて總ての貨物に對する需用が增加するか、或は其供給減少すれば、總ての貨物は騰貴するに違ゐない。是れ即ち我國に於ける物價の現狀である。染料、藥品、洋紙類の需用は必ずしも增加したのでないが、其輸入が激減した爲めに、從つて其供給が著しく減退した結果として、此等の貨物が暴騰した。又一方皮類、穀物、木材、絹綿織物等の供給は減退しては居らないが、其輸出從つて需用が增加した爲めに其市價は昂騰して居るのである。斯く云へば、味噌、醬油、魚類等の如く需用も左して增加せず、又其生產額も減退しで居らない貨物が騰貴したのは如何なる理由に因づくものであるかと問ふ人があるかも知れない。成程仔細に點檢すれば生產額が寧ろ多少增加せるに其需用が必ずしも膨脹して居ると認め難き貨物にして價格の騰貴したものが少くあるまい。然し、吾人は生產額と供給額とは同一のものでないことを記憶せねばならぬ。勿論、普通生產額が激增せば供給額も增加するものであつて、其一適例は米穀に於て之を觀ることが出來る。即ち米作豐饒の年には米價安く、凶作の年には高きは供給の如何に依りて定まることである。されど、假りに或る貨物の生產額が增加し、又は增加せざる迄も減量しないとき

に若し生産者が世間の好景氣又は市場の情況より推定して以前よりも高率の價格を以て賣却し得ると思惟したならば、勿論舊値段では自家製作の貨物を市場に提供しないであらう。若し果して然らば、此際には其貨物の供給が減少したものと看做すことが出來るのである。而して斯くの如く、供給が減退する結果として其貨物の市價は自然騰貴することになる。我國に於て對外貿易に關係なく內地に生産せられて同じく內地に消費せらるゝ貨物が今日騰貴せるは此原因に基づくのである。

斯くの如く物價の騰貴は貨物に對する需給の關係に依りて容易に說明し得るものである。然らば、通貨並に信用の膨脹を以て物價騰貴の原因を說明せんとするは誤謬であるかと云ふに決してさうでない。此方面よりしても充分に物價の騰貴を說明することが出來る。其理由は下の如くである。抑も貨物に對する需用なるものには貨物に對する支拂物件が伴はなければならぬ言葉を換ふれば、或人が一貨物の若干量を購入するには夫れに對して支拂ふ可き現金又は銀行預金を所有せねばならぬ。假りに、所謂信用取引の方法を以て貨物を引取る場合に於ても、賣主が買主の支拂能力を認めると云ふことが必要である。而して支拂能力は何か云へば矢張り現金又は銀行預金若しくは現金に何日何時たりとも換へ得る性質を有する國債とか一流の會社株券とか或は商業手形を有して居ることである。又、一定の代金支拂期日を定めて供給者が貨物の掛賣を爲すは其期日には購買者が此支拂能力を有するに違ゐないと其供給者が信じて居るからである。故に、或る人が貨物を購入する場合には夫れに對して支拂ふ可き正金を現に所有して居るか、或は掛買ならば一定の時迄に代金に相當する金額を入手し得ることが判然して居る筈でなければならぬ。從つて其人が現金又は銀行預金を所有すること益々多ければ、其人の支拂能力は愈々高かる可きである。然るに、通貨並に銀行預金が增加すると云ふことは何人かの所有に係る通貨若しくは銀行預金が增加したと云ふことを意味するものであるが故に、通貨並に預金の膨脹は取りも直さず少くとも社會の一部の人々の支拂能力が增進したことに外ならない。而して斯くの如く多數の人々の支拂能力が增加せば、貨物の需用が膨脹することになる。勿論多額の現金又は銀行預金を有する者必ずしも貨物の需用者と爲るに違いないと云ふことは出來ない。されど、凡そ現金にせよ銀行預金にせよ多額の購買力を有する者は其購買力を何等かの用途に之を利用するものである。其利用の方法を大別せば主なるものは消費又は持續的享樂の目的を以て日用品又は奢侈品を購入するか又は其遊金を投資用に供する外ならない。若し遊金が前者卽ち消費又は持續的享樂の用途に使用せらるゝとせば、夫れ丈け貨物の需用を膨脹せしむることゝなるが爲め、物價も從つて騰貴する。若し又之に反して遊金が株券若しくは公債に對して投資せらるゝとせば、其株券又は公債を賣却せる者の購買力が增進する結果として矢張り物價は騰貴するに至るに違ゐない。若し又、遊金を有する者が既に自己が經營せる事業又は新たに起したる企業に夫れを利用するとするも、貨物の需用增進す可きに依り物價の騰貴を促進するに至るものである。要するに、或は享樂的消費の爲め又は事業の經營の爲め、多くの人は現在使用しつゝある貨物よりも遙かに多量の物品を入手利用せんことを望んで居るのであるが、資力に限りあるを以て、多くの場合に於ては享樂若しくは事業上幾多の缺乏を感じながら隱忍して居るのである。故に、何等かの原因に依り、支拂能力が增進すれば、其能力は普通直ちに利用せらるゝに至るものであると云ひ

得る。而かも、前述の如く、通貨又は銀行預金の膨脹は何人かの支拂能力即ち購買力の增進せることを意味するものであるが故に、通貨及び銀行預金の增加は貨物需用の膨脹を促がし、延ぬて物價の騰貴を誘致するに至るのである。尤も、物價の高低は決して需用のみに依りて定まるのでない。從つて通貨並に銀行預金の膨脹のみに依りて物價の騰貴を說明すること能はざるは勿論であるが、單に或る二三の貨物が騰貴せし場合は別として殆んど總ての貨物が暴騰し所謂物價平準が著しく昂騰せる際に於ては其主なる原因は供給側よりも寧ろ需用側に存して居るものであるが故に、嚴密なる意味に於ては不充分であるはあるも、一個の略式說明として前記の方法を用ゆるは不當のことでない。尤も、通貨並に銀行預金の數量を根據として物價の騰落を論ずる際には、絕對的の數量を云々せずして相對的數量を論據とす可きである。通貨並に預金の相對的數量とは貨物取引の繁閑に對する此兩者の數量の過不足を云ふに外ならない。即ち貨物の取引が增加せざるに、獨り通貨又は預金のみが膨脹したとか或はせざるとかと云ふの類である。若し此方面を用ゆれば、貨物の供給側も自ら顧慮の中に入れらるゝことになる。如何となれば、貨物の取引は貨物の供給を基礎として行はるゝものであるからである。

斯くの如く、物價平準の昂騰は貨物の需給關係に依りても將た又通貨並に銀行預金の數量に依りても說明し得るものであると云つて差支へない。然しながら、一般世人の如く、又或る一派の經濟學者の如く、物價の騰貴したのは通貨並に銀行預金が膨脹し且つ貨物の需用が增進した爲めであると云ふのは誤つてゐる。如何となれば、通貨並に預金の增加は夫れ自體に於て直ちに物價を騰貴せしむるものではなく、先づ貨物需用の膨脹を惹起し、然る後夫れを通じて物價を昂騰せしむるものであるからである。從つて物價騰貴の原因としては通貨並に銀行預金の增加又は需用の增加を指摘す可きもので、兩者を同時に恰かも異なれる原因であるかの樣に併擧してはならぬ。若し此兩者を援用するとせば上記の如く前者が後者を誘致し其結果物價の騰貴を釀生したと云ふ順序にて說明をす可きである。

最後に、以上論述せる所に準據して、現時の物價騰貴を誘致せる事情に就きて簡單なる說明を試みるとすれば、大正三年七八月の交に於て歐洲大戰亂勃發して、染料、藥品の輸入杜絕しパルプ、洋紙等の輸入激減したときに、此等の貨物は暴騰したが、國民の購買力は別に增加した譯でなく、唯夫れ迄此等の貨物を購入した者の一部が他の方面に需用を向けたと云ふに過ぎないので、物價平準は左したる影響を蒙らなかつた。耳已ならず、同年秋期より翌四年の春期に亘りて米穀は供給過多の爲め暴落を演じ、生糸も輸出が激減した結果として同一の運命に陷ぬつたので、農家及び蠶糸業者の購買力衰へ一般經濟界を銷沈せしめた故に、物價平準は寧ろ低落するの傾向を有して居つたのである。然しながら、大正四年夏期以來今日迄軍需品其他の輸出が漸次增加し、從つて輸出起過を現出するに至り、其結果として巨額の正貨流入し、通貨並に銀行預金は次で膨脹したが爲め、一面に於ては企業の勃興を促がし、貨物に對する需用增加したが、又一方に於ては大小成金が邸宅の新築、骨董品の購入、衣服の新調、宴會等の爲めに惜氣もなく散財した結果として、物價を一般的に騰貴せしむるに至つた。詳言すれば、輸出の激增は輸出品の價格を暴騰せしめ、奢侈の流行は輸入品並に貿易に關係なき內國製品の市價を昂騰せしめたのである。企業の勃興に基づく勞働者の購買力の增進も物價の騰貴を助けたるは云ふ迄もない。

以上甚だ不完全であるが、現時の物價騰貴を釀したる原因に就きて多少の說明を試みたが、吾人は是れより進んで物價は如何にして調節し得るか、又此際物價を調節するの可否如何を論ず可きであるが、編輯の都合上夫れは次號に讓ることゝする。